

## 記者懇談会の記録

日 時	令和 4 年 8 月 30 日 (火) 15 : 30~15 : 55
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-1・3-2
記者数	6 人

### 1 原油価格・物価高騰対策について

(市長)

原油価格・物価高騰対策については、国が 4 月に決定したコロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」を受けて、市民生活や岩見沢地域の経済活動を支える取り組みを独自に進めてきました。

資料では、これまでの実施状況と併せて、新たに取り組む事業の概要をまとめています。

まず、実施済みの取り組みですが、生活支援として、学校給食の質の維持と保護者負担の軽減を図る取り組み、また、事業者支援として、運送業や製造業など原油価格等の高騰が経営に大きく影響を与える業種を対象とした「小規模事業者等経営サポート給付金」の支給、また、生活支援と事業者支援の両方の面がありますが、様々な商品やサービスに使用可能な「プレミアム商品券」の発行、そして、資材費の高騰に苦慮する建設業者への支援と市民負担の軽減に資する「プレミアム付建設券」の追加発行を行っています。

小規模サポート給付金は、申請が明日 8 月 31 日までの受け付けですが、これまでに 123 件の事業者等に対しまして、総額 3,960 万円の支援を行っています。

プレミアム商品券は、10 万セットの発行予定に対しまして、8 月 8 日の締め切りまでに 10 万 599 セットと、多くのお申込みを頂いたところであり、予定を若干上回っていますが、抽選は行わずに、全員を当選としています。申請数が 1 万 788 件、2 万 1,319 名の方から申請を受けています。

プレミアム付建設券は、4,200 口を追加して 6 月下旬に 3 回目の受け付けを行いました。追加分を大きく上回る 7,715 口のお申し込みを頂きましたので、抽選を行い、その結果 4,289 口を発行することとしています。

次に、新たに実施する取り組みですが、長引くコロナ禍や物価高騰等の状況を踏まえ、特に影響を受けている高齢者世帯等に対する生活支援や、公共交通の維持、地域経済の活性化など、さらなる取り組みが必要な分野について、9 月 5 日から開会する市議会第 3 回定例会に補正予算案を提案することとしています。

その中身ですが、生活支援として、低所得の高齢者及び障がい者世帯に対し、1 万 2,000 円分の商品券を交付する取り組み、事業者支援としては、原油価格等の高騰が経営に大きく影響を与えているバス事業者に対して、運行継続と事業維持を図るための支援を行うほか、市内経済のさらなる活性化を目的として、市外から来られる観光客等に対して、プレミアム率 30%の商品券を

発行する内容です。

これらの事業の財源については、道が6月に補正予算として計上した支援制度を活用するほか、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充てることとしています。

なお、個々の事業概要については、資料の2ページ目以降に記載しています。

<質疑応答>

(北海道新聞)

今回の新たな3つの事業のうち、バス事業者以外の2つは岩見沢市としては初めての取り組みかと思うのですが、近隣などで似たような取り組みを行っているのか、事業化に至る経緯を教えてくださいいただけますか。

(市長)

生活支援については、道の事業予算を活用することとしておりまして、市で負担する分の2分の1を道が負担するということで、低所得の高齢者世帯、これは市民税非課税世帯ですが、それと、障がい者世帯に対するプレミアム商品券の地元券、地元で使える券だけですが、それをプッシュ型で送付する事業内容になり、これは初めての事業になりますね。

それから、市外から市内に来られる観光客の方を対象としたプレミアム商品券で、これは確か以前にも観光客向けに追加発行した内容になります。2年前になりますね。これも道の財源も使いながら、ということになります。

ただ、今国の方で、交付金の増額の議論が出ていまして、詳細はまだはっきりしておらず、追加配分の規模や時期がまだ分かっていませんが、物価高騰が地域に与える影響はかなり大きいので、それを十分見極めたうえで、効果的かつ適時に対応することを基本に、今いろいろと検討、あるいは状況調査をしているところです。財源的には、今回、これまでやった取り組みの執行残などもありますので、その有効活用も含めて検討を進めていきたいと思っています。

(北海道新聞)

この市外向けプレミアム商品券は、前回の2年前の時ほどの程度の規模で実施して、どういった実績があったかというのを伺えますか。

(企画財政部長)

事業規模は同じです。ただ、今回は1万円にプレミアム分がついて1万3千円を500セットとなりますが、前回は発行部数が倍の1,000セットですが金額は半分でした。総額は同じですが、前回は2口まで買えることになっていたところ、実際に購入される方は皆さん2口購入していただき、特に分ける必要はないだろうということで、今回の形にしています。事業規模としては同じということになります。

(北海道新聞)

すべて売り切れたという形ですか。

(企画財政部長)

開始してほどなく売り切れたと聞いています。

(北海道新聞)

前日も、プレミアム商品券における地元券としての範囲、範疇で使えるものだったということでしょうか。

(企画財政部長)

はい。

(プレス空知)

プレミアム商品券事業について追加でお聞きしたいのですが、利用できる店舗に変更はありますか。新たに再募集して店舗が増える予定などありますでしょうか。

(市長)

プレミアム商品券は、現時点で利用対象店舗が 616 店舗になっていまして、これは地元券対象の店舗で、全部券が 141 店舗となっていますが、今回の事業は地元券が対象ですので、616 店舗となります。対象店舗はもう締め切っていて、従前のプレミアム商品券の発行事業の際に新たに募集をかけましたので、その店舗を対象として、616 店舗ということになるかと思えます。

## **2 いわみざわ百餅祭り、いわみざわ情熱フェスティバルについて**

(市長)

いわみざわ百餅祭りが第 40 回を迎えますが、9 月 17 日と 18 日の 2 日間、4 条西 2 丁目の交差点を中心として、1 条から 5 条の栄通りで、「第 40 回いわみざわ百餅祭り」が開催されます。

前回の令和元年度までは 3 日間の開催でしたが、2 日間の開催となったところです。

主な内容ですが、4 条西 2 丁目の交差点で「大白餅つき」を 17 日に 1 回、18 日に 3 回、計 4 回行い、ついた餅をお汁粉にして無料配布するという内容になります。

大白餅つきの時の引き手についてですが、感染対策をとるということで、現在事前登録で募集をしています。また、当日、本部テントにおいても各回の開始 15 分前まで募集することになっています。

また、17 日の 15 時から、栄通りで飲食・物販等 16 店舗が出店する「百餅市」が開催されます。16 時からはオープニングセレモニーも予定しています。

協賛事業ですが、まちなか朝市やキッチンカーマルシェ等が実施されるほか、18 日の日曜日には、4 条通り商店街振興組合の主催で、「4 条チビっ子百餅つき」が、12 時と 13 時の 2 回開催される予定となっています。

なお、これまで実施しておりました「長寿もちまき」や「百餅神輿渡御」、「木遣り」については、今回は感染対策の観点から、実施を見送ったということになっています。

次に、「いわみざわ情熱フェスティバル 2022」ですが、百餅祭りの期間中、駅東市民広場公園及びイベントホール赤れんがを会場として、こちらも 3 年ぶりの開催となります。

開催内容としては、岩見沢産の食材を使用した飲食メニューの提供・販売、市内で製造された製品の販売・展示、JA いわみざわ等による地元産の新鮮で安全・安心な、おいしい農産物の直売、加工品の販売など、16 企業・団体の出展が予定されています。また、その他にも、市民参加によるダンスのステージなど、各種ステージイベントが実施される予定です。

最後に、どちらのイベントも新型コロナウイルスの感染対策を十分に講じた上で開催することとしておりますが、参加、来場される皆様には、マスクの着用や食べ歩き禁止など、感染対策にご協力いただきますようお願いをしております。

< 質疑応答 >

(プレス空知)

百餅祭りの引き手ですが、誰でも応募できるのでしょうか。応募したい場合はどこに問い合わせたらよろしいでしょうか。

(市長)

お申し込みは誰でもしていただけます。申し込みいただくのは観光協会になります。

(プレス空知)

当日はどちらで登録できるのでしょうか。

(市長)

当日は本部テントが 4 条の西 2 丁目にありますので、そちらで各回 50 名募集しています。

(プレス空知)

以前の情熱フェスティバルで、野菜の詰め放題が人気イベントだったと伺ったのですが、今年も行われるのでしょうか。

(市長)

詳しい内容までは把握していませんが、確かに玉ねぎの詰め放題ですとか非常に人気でしたね。今年もやるのかな。ちょっと聞いていませんが、いろいろと工夫を凝らしていると思います。玉ねぎも出来がいいと聞いていますし。やってくれたらいいですね。

### **3 その他**

< 質疑応答 >

(北海道新聞)

コロナの感染状況について、8 月に入ってからかなりの数字が続いていて、やっとピークアウトしそうな雰囲気はあるのですが、百餅祭りも含めいろいろなイベントも並行しながらのウィズコロナの部分で、現状市長はどのように捉えていらっしゃいますか。

(市長)

詳しい状況、例えば道のモニタリング結果などは情報としては持っていないのですが、市内の発生数も前々週が 630 人くらいだったのが、前週は 400 人台に落ち着いたというのがありますし、

市立病院の発熱外来のピーク時は1日に200人近く受診される方もいたのですが、その状況を見ると、受診者数も落ちてきましたし、陽性率も今は40%台くらいまで落ちていきますので、そういう意味では落ち着いてきたと思います。このまま、特に週末はJOIN ALIVEも開催される予定ですし、このまま推移していけばいいなと思っています。

やはり個人でできる感染対策の徹底を継続していただくのがウィズコロナの基本になるのかなと思っています。

(北海道新聞)

もう一点、今日JRの方で、留萌線の廃止について沿線自治体が合意するという報道も出ていますが、今度は黄色線区がどうなるのかというのが次の関心に移ってきて、室蘭線についても対象な訳ですが、改めて、室蘭線の現状ですとか、活性化含めた取り組みについてどのように考えていらっしゃるか教えていただけますでしょうか。

(市長)

室蘭線、ここ2年間いろいろと協議して定めたアクションプランがほとんど実施できなかったという側面があるのですが、ご案内のとおり、通勤・通学、あるいは通院を主体とした生活路線でもありますし、貨物輸送の重責を担っている路線になります。これからはやはり、通勤・通学の利用者をできるだけ生活路線としてしっかり確保していくことと、イベント等を通じての利用客の増を目指す取り組みというのが沿線でも協力をして行っていきたいと思いますが、その反面、やはり維持をするコストをどう削減していくかというのも沿線の協議会などで議論をしていくという時期に差し掛かってきているのではないかと思います。

いろいろと今後の展開についてはJRさんでも国交省でも全国的に基準を設けていますが、基本的には室蘭線は貨物輸送を担っていますので、廃止という議論とは別の議論の方向性になるのだらうと思っていますが、有効活用と、沿線で協力してのコストの削減等についてはしっかり検討していきたいと思っています。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)